

東北支部長小原勝敏から内視鏡学会理事長上西紀夫先生へお送りしたメールと上西先生からのご返信のメールを掲載いたします。

小原 勝敏 教授 殿

ご依頼の件についても検討を行い、日本消化器内視鏡学会、日本消化器病学会、日本消化器外科学会、日本内視鏡外科学会の4学会が一緒になり、各学会の理事長連名で医薬品、診療材料の被災地への迅速なる搬送の要望を、ホームページに掲載しました。実効性があることを期待しています。また、各メーカーもそれなりに努力を傾注していると思いますが、やはり、物流が一番問題のようです。

日本医師会も医薬品を被災地に送っていますが、世間的には診療材料への注目は少ないと思います。メーカーへ、直接的に学会から要望を出すことが必要と思っています。

一番の問題は、効率の良い発送だと思います。政府、行政レベル、あるいは大学が中心となってこの問題を集約し、必要性の高いところへの配送などソフト面での検討が急務です。いずれにせよ、現場は待ってられないことと思いますが、もうしばらく頑張ってくださいと思います。

上西 紀夫

理事長

上西 紀夫先生

青森県、岩手県、秋田県などから情報が入りましたので、福島県も含めて学会への要望がございます。

各県に共通していることは、各種内視鏡処置具が底をつきかけており、検査の制限をせざるを得ない状況にありということです。また、感染防御としてのガウンやエプロン、手袋、マスク、シューズカバー等の在庫やシリンジの在庫も少ない状況です。このような医療用物品を東北地区に一日も早く供給していただければとお願い申し上げます。

取り急ぎ、学会への要望事項の一つとして、よろしくお願ひ申し上げます。

平成 23 年 3 月 20 日

東北支部長

小原 勝敏